



菊陽町図書館

ライブ・レター

2022年9・10月号

日中はまだまだ暑いですが、朝夕の風や虫の音に秋の気配を感じます。秋といえば、スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋…いろいろな秋が楽しめます。でもやっぱり、秋の夜長は「読書の秋」！！素敵な本との出会いがありますように！

2022・第76回読書週間 標語「ひとみキラキラ 本にどきどき」
(2022年「読書週間」は10月27日～11月9日)

中学校国語の教科書で紹介されている本



『ロボットの歴史を作ったロボット100』

アナ・マトロニック//著 片山 美佳子//訳

神話時代の人造人間といった夢物語から、個性的なロボットが活躍するSF作品、そして各国が開発するロボットまで。フィクションが描き、科学が実現してきた古代から現代までのロボットをずらりと紹介します。



『翻訳できない世界のことば』

エラ・フランシス・サンダース//著 イラスト 前田 まゆみ//訳

インドネシア語「JAYUS」(笑うしかないくらい笑えないひどいジョーク)など、他の言語に訳すと言では言い表せない「翻訳できないことば」を世界中から集め、感性豊かな解説と瀟洒なイラストを添えて紹介しています。



『医者のおたまご、世界を転がる。』

中島 侑子//著

インドの奥地、ネパールの無医村、パキスタンのテロリスト村…。研修医終了と同時に世界へと飛び出した著者が、どのような体験や出会いを経て救命救急医になるに至ったかを綴っています。各地で出会った驚きの医療体験なども紹介します。



『そして、ぼくは旅に出た。』

大竹 英洋//著

世界的な写真家に弟子入りを志願するため、アメリカ・ノースウッズへ。それが自分の人生を前に進めることのできる、ただひとつの行動だった。大自然に憧れ、写真家をめざすことになった1999年の旅を綴ります。

中学生・高校生職場体験おすすめ本



『ライオンのおやつ』

小川 糸//著

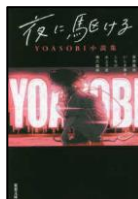
余命宣告を受けた女性が自分にとって最後の場所としてライオンの家というところで最後の時間をすごすお話です。感情移入して読むとぐっときます。自分の今までについて考えることができるし、これからの生き方について考えさせられるやさしい作品です。



『君は月夜に光り輝く』

佐野 徹夜//[著]

大切な人の死から、なげやりに生きている僕が高校生になり、「発光病」で入院している彼女と出会う。余命わずかな彼女の死ぬまでにしたいことを手伝えるという約束から、止まっていた僕の時間がまた動きはじめた。今を生きている人に届けたい感動のストーリー。



『夜に駆ける』

星野 舞夜//著 いしき 蒼太//著 しなの//著 水上 下波//著

「小説を音楽にする」という、これまでになかったコンセプトで活動しているYOASOBI。そのYOASOBIの楽曲の原作小説が小説集に。デビュー曲「夜に駆ける」や「あの夢をなぞって」「たぶん」「アンコール」(本の中では未発表曲とかいてあります)の4曲が原作に入っています。この本を読んだら、さらに曲を楽しめること間違いなし！



『白い衝動』

呉 勝浩//著

スクールカウンセラーとして働く奥貫千早のもとに現れた高校一年の生徒は「人を殺してみたい。できるなら殺すべき人間を殺したい」と語りだす…。社会が抱える悪を問う、祈りに溢れた長編小説です。「Aはまだ人を殺していない」この書き出しの文に私はぐっとひきよせられました。おもしろいからぜひ読んで！！



『アキラとあきら』

池井戸 潤//著

生まれも育ちの違うふたりは、互いに宿命を背負い、自らの運命に抗って生きていた。ふたりが出会い、それぞれの人生が交差したとき、今までにない過酷な試練が降りかかる。逆境に立ち向かうふたりのアキラの感動の青春ストーリー。

※菊陽町図書館には「中学校国語の教科書で紹介されている本」のコーナーがあります。



テーマ 「空を見上げて」

空気が澄み、高くきれいな秋の空。9月20日は「空の日」です。いろんな空を近に感じる本を集めました。スマホを置いて、秋の空を見上げてみませんか？

『空をつかむまで』 関口尚//著



廃校になる中学校の名前を残すため、同級生3人はリレー形式のトリアスロンに出場することになる。

『空へ』 いたうみく//作



小学6年の時、父親を亡くした陽介。母と妹の三人のアパート暮らしが始まる。いろんな葛藤をかかえながらも、周囲に支えられ成長していく。

『セカイの空がみえるまち』 工藤 純子//著



帰宅する途中、立ち寄ったことのない新大久保の駅で降りた中学二年生の空良（そら）。彼女が、目にしたものは、大人たちの他国の人への差別意識だった。

『青空のかげら』 S. E. デュラント//作 杉田 七重//訳



児童養護施設スキリー・ハウスで暮らすことになったミラとザックの姉弟。二人は家族を見つけて幸せになれるのか？



秋の行事 × 本

- ◆中秋の名月（9月10日）
- ◆敬老の日（9月19日）



『星に願いを、月に祈りを』 中村航//著



キャンプの夜、「蛍を見に行こう」と夜中にこっそりと森の中に向かう。どこから流れてくるのか、分からない謎のラジオ。ひとつのラジオで繋がる連作短編集。

- * 『太陽と月の大地』 コンチャ ロベス=ナルバエス//著 宇野 和美//訳 松本 里美//画
- * 『13カ月と13週と13日と満月の夜』 アレックス・シアラー//著 金原瑞人//訳

『奮闘するたすく』 まはら 三桃//著



たすくは、夏休み中、認知症のおじいちゃんに付き添ってデイサービス（通所介護）に行くことになった。しかも、そこでの出来事を自由研究として、レポートしなければならない。

- * 『西の魔女が死んだ』 梨木香歩//著
- * 『夏の庭』 湯本香樹実//著



新着コーナー



『その事件、こども弁護士におまかせ!』

山崎 聡一郎//原案 岩佐 まもる//著



『こども六法』、待望の小説版! いじめ、ブラックバイト、デートDV…… 法律の知識と思考力で、事件を解決することはできるのか!? 自分を守るための法律を知ろう!

『マンガでたのしむ! 科学の法則』 うえたに夫婦//著



ピーカーくんシリーズなどでおなじみの、うえたに夫婦が、難しく感じてしまいがちな科学の法則を、マンガでやさしく解説。実はこんなところで法則が使われていた! など、あらたな発見があるかも……。

『漢字が日本語になるまで』 円満字 二郎//著



中国から伝わった漢字は、日本語にとってかなり不便な文字だった。日本人はどう工夫し使いこなしてきたのか。ことばの奥深さに迫るタイムトラベルに出かけよう!

『あたしとひぐっちゃんの探偵日記』 櫻井 とりお//著



怪しすぎる男はあたしのおじさんで探偵!? みずきは、ある日公園で親友・あんなの相談にのっていたところ、怪しげな男に出会う。夏なのにコートを着た金髪ロングヘアの男は、みずきの亡くなった父の兄で探偵だと言う。

『住所、不定』 スーザン ニールセン//作 長友 恵子//訳



4か月前、ぼくとママはキャンピングカーで暮らしはじめた。アパートを追い出されホームレスになったんだ。ところが一時的なはずの車上生活は長引き、しだいに身も心も追いつめられていく。